抗菌薬を未来に残すために

抗菌薬（抗生剤、抗生物質）は感染症の治療のために大切な薬剤です。しかし、薬の効かない菌（薬剤耐性菌）が増加しています。病院の中だけでなく、病院の外でも増えているのです。このままでは感染症の治療が難しくなり、助かったはずの命を失うことにもなりかねません。

薬剤耐性菌の増加を防ぎ、抗菌薬を将来の子どもたちに残すためにさまざまな対策がとられはじめています。中でも大切なのが、抗菌薬を必要なときに限って適切に使うことです。そのためにあなたにもできることがあります。

1. 必要がないときに抗菌薬をもらわない

抗菌薬は風邪（ウイルスによる感染症）には効きません。不必要な抗菌薬を飲むことは思わぬ副作用の原因となります。さらに口や腸にいる菌が薬の効かない菌（薬剤耐性菌）になってしまうかもしれません。

必要がないときに抗菌薬をもらうのはやめましょう。医師は抗菌薬が必要な病気かどうかを見極めています。なお、医師の処方箋がなくては抗菌薬を購入できません。

2. 抗菌薬はきちんと飲みきりましょう

医師が抗菌薬を処方したときは指示通りに飲みきりましょう。体調がよくなったからと言って途中でやめないでください。途中でやめると治りきらなかったり、再び悪くなったりする原因となります。また、薬の効かない菌（薬剤耐性菌）が広がってしまうおそれもあります。

3. 残さない・あげない・もらわない

残しておいた抗菌薬を後で飲まないでください。抗菌薬を人にあげたり、もらったりしないでください。あるときに効果があっても別の病気に効くとは限りません。医師は感染症の種類や菌に合わせ、年齢や体格などをみながら抗菌薬を選んでいます。

後で飲んだり他人とやりとりをすることで、思わぬ副作用が出たり、薬の効かない菌（薬剤耐性菌）が広がってしまうおそれがあります。

4. 医師・薬剤師に聞きましょう

病気や抗菌薬についてわからないことがあれば医師や薬剤師に相談しましょう。自分の病気や治療をよく知ることはきちんと安全に治療するための第一歩です。

抗菌薬

・細菌によって引き起こされる感染症を治療するための薬です。抗生剤、抗生物質と呼ばれることもあります。

・ウイルス（細菌よりもずっと小さな微生物です）による感染症には効果がありません。

・風邪はウイルスによるものです。抗菌薬は風邪には効果がありません。

薬剤耐性菌

・抗菌薬が効かなくなってしまった細菌のことです。

・抗菌薬を使うことが薬剤耐性菌の増えるきっかけとなります。手洗いなど基本的な感染予防ができないと周囲に広がることがあります。

・近年、薬剤耐性菌がますます増加しており、世界的に問題となっています。次の世代に抗菌薬の効果を残すため、国際的な取り組みが始まっています。

抗菌薬啓発週間とは

薬剤耐性菌の増加を抑え、抗菌薬（抗生剤、抗生物質）の効果を保つための取り組みが行われています。なかでも現在私たちが使うことのできる抗菌薬を適切に使用することはもっとも重要です。そのためには医療従事者のみならず市民が知識と情報を共有し、力を合わせて取り組む必要があります。

ヨーロッパ諸国では 11 月 18 日を抗菌薬啓発デーと定め、多くの取り組みがなされてきましあた。2015 年からは世界保健機関（WHO）が 11 月 18 日を含む週を抗菌薬啓発週間とし、世界的な啓発活動を行うこととなりました。

日本にはこの啓発活動の母体となる組織がありません。そこで、感染症診療に取り組む医療従事者を中心とした有志が活動を開始しました。活動には個人でできるもの、地域で取り組めそうなこと等様々な活動があります。ぜひご参加ください。

http://antibioticawarenessjp.jimdo.com/

2015 年の抗菌薬啓発週間を提案するホームページ

http://www.dcc-ncgm.info/

国際医療研究センター　国際感染症センター国際感染症対策室

http://www.tohoku-icnet.ac/

東北大学大学院医学系研究科　感染制御・検査診断学分野

将来のこどもたちに

大切な抗菌薬を残すために

いま私たちにできること